

さいたま市立館岩少年自然の家 所報 第100号記念号



# たていわ

創刊

100

記念号

〒967-0347 福島県南会津郡南会津町宮里字向山 2847-1  
TEL 0241-78-2311 FAX 0241-78-2313  
URL <https://tateiwa-sizen.saitama-city.ed.jp>



◀こちらの QR コードから、館岩少年自然の家のホームページにつながります。



中規模修繕工事前(左)と後(右)の宿泊室

中規模修繕工事の  
外観工事が終了したとくさ館東側



## 「所報 100号を迎えて」



所長 新堀 栄

館岩少年自然の家の所長として2年目の秋を迎えています。昨年度より2か年計画で実施している中規模修繕工事もゴールが見えてきました。来年度の自然の教室を少年自然の家で迎えるにあたり、今後、施設内外の整備を遺漏無きよう進めて参ります。

さて、この度、所報100号を迎えることができました。かつて所員時に、どのような紙面をつくろうか工夫を凝らしていたことを思い出します。所報の一号、一号には、その時代の所員の思いやその時々話題が詰まっています。この先も歴史を積み重ねていくこととなりますが、引き続き御愛読いただければ幸いです。これからもお力添えの程、よろしくお願い申し上げます。

# 挨拶

## 所報 100 号の発行にあたり



さいたま市長  
清水 勇人

「館岩少年自然の家」所報 100 号の発行おめでとうございます。  
館岩少年自然の家の運営にあたり、これまでの御理解、御協力をいただきました館岩地域の方はもとより、南会津町の皆様方、館岩少年自然の家の職員に対し深く感謝を申し上げます。  
館岩少年自然の家は、昭和 56 年の開所以来約 180 万人が利用している施設と伺っております。この施設は、さいたま市の子どもたちにとって自然とのふれあいを通じて、「生きる力」を育む場として大切な役割を果たしています。  
今後も本市と南会津町との連携がますます図られ、更なる友好が深められることを期待しております。

## 所報 100 号の発行を迎えて



さいたま市  
教育委員会教育長  
竹居 秀子

令和 5 年 6 月 28 日付、教育長に就任いたしました、竹居秀子でございます。  
ここに記念すべき「館岩少年自然の家」所報 100 号を発行することができました。これまでの 100 号にわたる活動報告や体験談は、子どもたちの成長や学びの軌跡を伝える貴重な資料となっております。南会津町の皆様をはじめ関係の方々の御尽力と熱意の賜物であり、これまでの御協力に深く感謝申し上げます。  
館岩少年自然の家は、いうまでもなく、さいたま市立小・中学校の児童生徒が五感をはたらかせ取り組めるような自然体験活動を推進する中枢を担っており、多くの体験活動で培われる非認知能力の醸成にも寄与しています。さらに、令和 5 年度からは国立青少年教育振興機構の委託事業、「体験の風をおこそう」運動推進事業に参画し、南会津町の豊かな自然の中で様々な体験活動を提供しているところです。  
これからも館岩少年自然の家が、子どもたちの成長と未来への希望を育む場であり続けられるよう、教育活動の充実に努めて参ります。

# 祝辞

## 「所報たていわ第 100 号記念を祝して」



南会津町長  
渡部 正義

さいたま市立館岩少年自然の家の所報たていわ第 100 号記念誌が発行されますこと、心からお祝い申し上げます。  
館岩少年自然の家がある館岩地域は、美しい清流が流れ、日本の原風景を今に残し、四季折々の自然や郷土料理を満喫できます。  
南会津町の豊かな自然の中で学び体験することによって、さいたま市の児童生徒の皆さんが、たくましく成長されることを真に願っております。  
これからも、より一層交流の輪が広がり、友好の絆が深まっていくことを期待し、お祝いの言葉といたします。

## 「所報 100 号の発行を祝して」



南会津町教育長  
星 英雄

「館岩に自然の家があって良かった！」  
所報 100 号の発行にあたり、先人をはじめ館岩少年自然の家に熱い思いを持ち、ご尽力されております皆様に、敬意と感謝を申し上げます。  
館岩少年自然の家の存在は、本町の教育はもとより地域の振興におきましてとても大切であり、本町の豊かな自然の中で学習するさいたま市の子どもたちの姿は、私達に地域の良さを気づかせ、地元を元気にしてくれております。  
そのような子どもたちのより良い成長と館岩少年自然の家の益々の発展をご祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

# 表紙で振り返る 所報たていわ



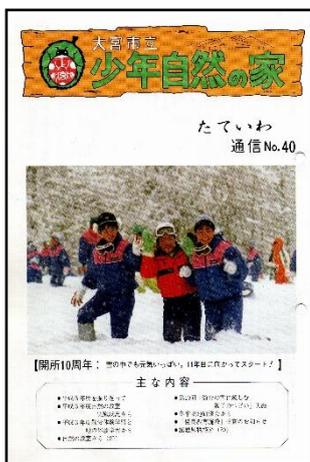
第1号  
昭和57年3月10日発行

開所当時の施設名は「大宮市立少年自然の家」でした。そして所報ではなく「通信」でした。  
写真は、少年自然の家に着き、荷物を持った先生と子どもが歩いている様子です。自然の教室を楽しみにしている様子が伺えます。



第23号  
昭和62年12月10日発行

当時の馬橋大宮市長と子どもたちが、サルビアを植えています。  
自然の教室(夏季)では、「緑の体験活動」の一つとして、子どもたちに花の種や苗を植えてもらう活動を実施しています。



第40号  
平成4年3月25日発行

表紙がカラーになりました。膝の高さほど降り積もった雪の中、友達と遊んで笑顔いっぱいの子供がよく伝わります。  
開所10周年という節目を迎えたこの年、少年自然の家は、埼玉県教委より「優良教育施設賞」を受賞しました。



第50号  
平成6年12月15日発行

第50号記念特集号の表紙は、燭台を2つ使用して、キャンドルファイヤーで大いに盛り上がっている子どもたちの様子です。  
記念特集号では、多くの方々からお祝いのお言葉をいただきました。



第70号  
平成13年6月15日発行

今号からさいたま市の誕生に伴い、「大宮市立少年自然の家」から「さいたま市立館岩少年自然の家」に名称変更しました。  
表紙にホームページのURLを掲載するようになりました。



第79号  
平成16年9月17日発行  
第93号  
平成28年7月30日発行

所報は第79号から第93号までは赤城少年自然の家との合併号になりました。  
赤城少年自然の家は、平成27年度で閉所となりました。第93号は閉所企画として、その42年間を振り返る記事が掲載されています。



第95号  
平成30年5月25日発行

新館「からまつ館」が完成しました。落成式にはさいたま市長、南会津町長をはじめ、120名を超える出席者をお迎えしました。新館に続く渡り廊下の前でテープカットが行われました。



第98号  
令和3年6月1日発行

館岩少年自然の家が開所40周年を迎えました。  
開所当時の写真、そして40周年を迎えた館岩少年自然の家の全景を、上空から撮影した写真が掲載されています。

## ■中規模修繕工事の様子

館岩少年自然の家では、令和4年4月より2か年計画で本館ととくさ館の中規模修繕工事を実施しております。

食堂は、内装や、照明などが変わりました(写真1)。体育館は照明がLEDに変わりました(写真2)。ネットの内側では、外壁の塗装作業や、屋根の修理などが行われました(写真3)。とくさ館の1階の窓には、雪囲いが設置されました(写真4)。



## ■自然の教室の様子

中規模修繕工事中は、たかつえ、南郷で自然の教室を実施しております。実施に当たって、たかつえスキー場、南郷スキー場、会津アストリアホテルズ、ホテル南郷、たかつえペンション村、リゾートイン台鞍、季の郷湯ら里とたくさんの施設に御協力をいただきました。お陰様で、令和4年度は夏季、冬季ともに計画していた全ての学校が自然の教室を実施することができました。

スキー体験活動



宮床湿原散策



かんじき体験



野外炊飯



## ■地域貢献



館岩地域の夏祭りでは打ち上げられる花火の設置作業を協力いたしました。

月に1回程度、地域の清掃作業にも参加して、自然の家付近の道路のゴミ拾いを行います。



### 入所統計 (令和4年度)

合計 66,524人

たかつえ 46,039人

南郷 20,485人

※令和4年度は、中規模修繕工事により、館岩少年自然の家を使用しておりません。そのため、令和4年度の入所統計は、自然の教室参加人数の統計を掲載いたします。

### 所員紹介(令和5年度)

所長 新堀 栄

管理係 ★平野 守、金子 圭太

指導係 ☆葛西 耕輔、中尾 美香、塚本 展寛、馬場 正和、那須 菜摘女、内田 暁生、佐藤 泉、吉見 康之、藤井 智之、大塚 慶、鈴木 康弘

会計年度任用職員 平野 紘次、阿久津 初男、星 タマヨ、赤羽 明子

★所長補佐兼管理係長

☆主席指導主事兼指導係長

太字下線は、令和5年度就任所員